

口腔崩壊

自治体6割把握せず

子どものフォローが課題



大阪社保協のアンケート

トにより、大阪府内の約4割の自治体しか口腔崩壊の児童数を把握していないことが分かった。大阪府内の自治体に、小学校および中学校における歯科健診で、う蝕が10本

口腔崩壊の児童数を把握している自治体

Table with 2 columns: City/Town/Village, Number of children with dental caries. Includes Osaka City, Higashi Osaka City, etc.

※太子町のみ中学校の児童数の回答なし

崩壊は子どもの家庭環境を知る上で重要な指標になるが、約6割の自治体が実数を把握しておらず、学校任せとなっている。

ただ、大阪市内の一部区では受診に同行したという事例もあった。制度として受診の同行が位置づけられるよう、行政へ働きかけていく必要がある。

高すぎる国保料を告発

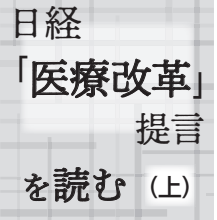
大阪社保協が記者会見



協会が常任幹事団体を務める大阪社会保険推進協議会は7月28日、大阪市内で記者会見し、国民健康保険料が高騰している問題を報告した(写真)。

所得100万円の4人家族のモデル世帯では、府の統一保険料は20万円を超えるが、京都市16万7946円、名古屋12万7733円と比較しても著しく高くなっている。

事実上の脱社会保障



日本経済新聞社と日本経済研究センターでつくる医療改革研究会が6月20日に「医療改革」提言の最終報告をまとめた。

提言は提供体制や患者負担、給付のあり方について抜本的な転換を訴えている。いずれも医療のサービス産業化を基本に、徹底した給付削減・患者負担増を求める内容だ。



国宝・重要文化財®

韓国の高麗時代(918~1392)につくられた高麗青磁は、高麗王朝の滅亡とともに人々の前から姿を消した「幻のやきもの」。約5000年の時を経た1880年代の初め頃、副葬品として墓に埋められていた高麗青磁が世の中へ出回りはじめた。

宝相華風の花文

さて、今回紹介する大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の水注は、日本で重要文化財に指定されている高麗青磁3点のうちの1

幻の高麗青磁 多彩な装飾

青磁象嵌童子宝相華唐草文水注 (重要文化財)



高麗時代・12世紀後半~13世紀前半 高19.2cm、幅23.9cm×16.4cm 大阪市立東洋陶磁美術館蔵 (住友グループ寄贈/安宅コレクション) (写真:六田知弘)

点で、高麗青磁を代表する名品の一つである。水注は茶や酒などの液体を注ぐためのものだが、まんまるな胴体に、蔓(つる)をよじ登る

「ジャックと豆の木」のような童子の姿が見える。童子は目を細めて微笑み、両手で蔓を握りしめ、右足は蔓の下にぶら下がり、曲げた左足を踏ん張って力強くよじ登ろうとしている。成熟した曲線で童子のまわりに描かれた満開の宝相華風の花文はとて珍しく、文様に奥深い広がりをおたえている。また輪郭を黒象嵌で表し、その背景を白土で埋め込む、いわゆる「逆象嵌」の技法が文様を一層際立たせ、把手と注口には蓮の葉や芽をあしらった、白堆(はくついで)と鉄彩による装飾が施されるなど多彩な技法が見られる。

参加ご希望の方は、必ず事前にお申し込み下さい。M&Dホールは保険医会館東隣りです。

協会行事案内

お申し込みは右のQRコードから協会行事予定の「お申込み」へ



協会行事案内: Zoom限定 9月度生涯研修 磁性アタッチメント義歯の実際、歯の酸蝕症特殊健診の実際、明日、依頼の電話が来たら、歯初診の施設基準に係る研修会、歯初診の施設基準に係る研修会

無料相談: 法律 9月5日(月)午後2時~4時、雇用 9月15日(木)午後2時~4時、税務 9月21日(水)午後2時~5時